

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は2.29人と、前週と比べて約1.6倍に増加しています。

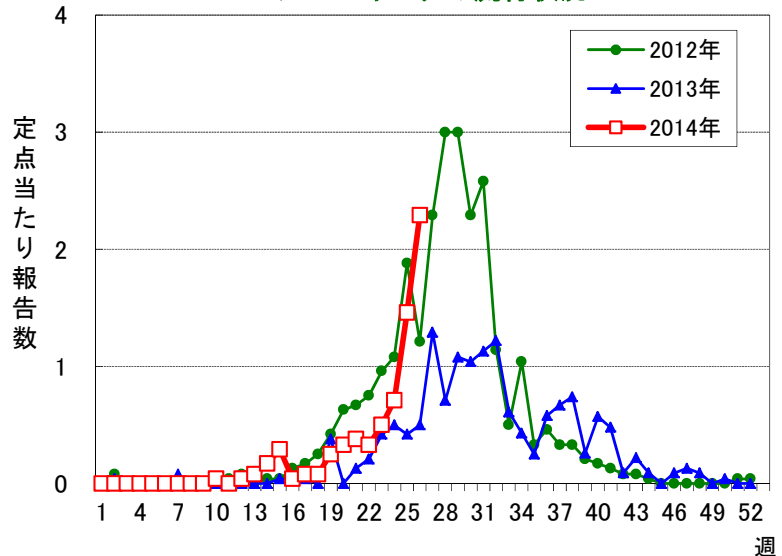
ヘルパンギーナは、発熱と口の中の水疱を特徴とするウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に、ほぼ毎年夏季に流行します。

予防には、手洗い・うがいの励行が大切です。

2. 腸管出血性大腸菌感染症

今年初めて1件の報告(O26)がありました。例年、気温が高い時期に多発する傾向にあります。また、子どもと高齢者は重症化しやすいため、特に注意が必要です。(次頁参照)

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	1	0.03	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	32	1.33	0.62	
	咽頭結膜熱	17	0.71	0.65		眼科	RSウイルス感染症	-	-	0.06	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	2.54	1.23			急性出血性結膜炎	-	-	0.10	
	感染性胃腸炎	126	5.25	4.11		眼科	流行性角結膜炎	2	0.25	1.40	
	水痘	35	1.46	1.27		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	7	0.29	4.02			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.03	
	伝染性紅斑	-	-	0.28			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.54	
	突発性発しん	20	0.83	0.64			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.12			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	55	2.29	1.35							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	6	89	男性(20歳代)・1人、男性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	女性(80歳代)・O26
4	レジオネラ症	1	11	男性(70歳代)
5	アメーバ赤痢	2	7	男性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人
5	後天性免疫不全症候群	1	8	男性(30歳代)・感染者

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第22週	10	18	92	229	38	5	-	16	2	8	17	1	-	5	-	1	-	-	5	
		第23週	4	11	84	227	29	3	1	15	-	12	19	2	-	6	-	1	-	-	-	
		第24週	2	12	72	188	47	3	-	19	3	17	24	1	-	2	-	1	1	-	4	
		第25週	3	12	57	178	34	2	1	20	1	35	19	1	-	5	-	1	-	-	3	
		第26週	1	17	61	126	35	7	-	20	-	55	32	-	-	2	-	1	1	-	-	
定点 当たり	広島市	第22週	0.27	0.75	3.83	9.54	1.58	0.21	-	0.67	0.08	0.33	0.71	0.04	-	0.63	-	0.14	-	-	0.71	
		第23週	0.11	0.46	3.50	9.46	1.21	0.13	0.04	0.63	-	0.50	0.79	0.08	-	0.75	-	0.14	-	-	-	
		第24週	0.05	0.50	3.00	7.83	1.96	0.13	-	0.79	0.13	0.71	1.00	0.04	-	0.25	-	0.14	0.14	-	0.57	
		第25週	0.08	0.50	2.38	7.42	1.42	0.08	0.04	0.83	0.04	1.46	0.79	0.04	-	0.63	-	0.14	-	-	0.43	
		第26週	0.03	0.71	2.54	5.25	1.46	0.29	-	0.83	-	2.29	1.33	-	-	0.25	-	0.14	0.14	-	-	
	全国	第24週	0.13	0.82	2.55	5.80	1.28	0.48	0.28	0.65	0.02	0.85	0.31	0.07	-	0.68	0.01	0.05	0.29	0.01	0.20	
		第25週	0.10	0.84	2.47	5.46	1.13	0.58	0.33	0.67	0.02	1.31	0.35	0.08	0.01	0.66	0.02	0.05	0.26	0.01	0.14	

■新たに判明した病原体検出状況

(検査:広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
川崎病	発熱(38.0)	1	男	2014/04/27	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.2) 上気道炎 クループ	0	男	2014/05/21	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の疾患	発熱 肺炎 熱性痙攣	1	女	2014/05/17	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス3型 ヒトヘルペスウイルス6型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

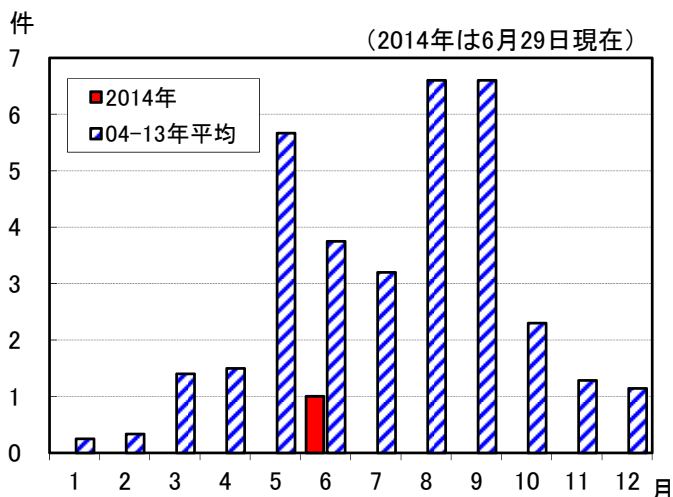
腸管出血性大腸菌は、経口感染がほとんどで、汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して感染します。熱には弱いですが、感染力が強くわずか数十個でも感染すると考えられています。

予防のために次のことに特に注意しましょう。

- 手洗いを励行しましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、肉・レバーなどは十分加熱し、生食は控えましょう。
- 乳幼児や高齢者のオムツの取り扱いには十分注意しましょう。
- 家庭用プールを介して感染することも考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2014年は6月29日現在)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
2014年第13週及び第20週の週報に掲載していた「全国の麻しん年間報告数の推移」グラフを訂正しました。
感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第26週(6月23日～6月29日)